

国際線定期便就航25周年 –1986年にタイムワープ



Photo LUKE H.OZAWA

本年3月3日、おかげ様で当社は国際線定期便就航25周年を迎えました。ご支援を頂いた皆様には、心より感謝申し上げます。8月1日現在、当社国際線定期便にご搭乗されたお客様は累計で7千万人を超え、「国際線事業」は「国内線事業」とともに当社を支える屋台骨となりました。



1986年3月3日、記念すべき国際線定期便の初便となったグアム便に搭乗するお客様

2011年3月3日、国際線定期便就航25周年を記念して運航した成田→グアム線チャーター便



ポスター

四半世紀が経過したのを機にタイムワープして1986年の就航当時の様子をレポートします。初心を忘れることなく、ANAは新たな一歩を踏み出してまいります。引き続きのご愛顧をよろしくお願い申し上げます。



国際線定期便初便のコックピット内。柴田機長(左)、山川機長(右奥)、清原航空機関士(右)の3名で運航しました。



滑走路に向かうロッキードL1011型機(トライスター)



急ぎ、建てられたプレハブ造りの会議室で運航乗務員と客室乗務員が出発前ブリーフィングを行っていました。

これからも「安全運航」を基本にたゆまぬ努力を

柴田久夫
ANA元機長



私はロッキードL1011型機で国際線チャーター便に勤務し、国際運航業務室副室長として国際線定期便の運航準備を進めてきた経緯から、成田→グアム線の初便に勤務することになったのだと思います。すでにグアムへの国際線チャーター便運航経験もありましたので、記念すべき国際線定期便の初便といっても、普段と変わらぬ勤務だったと記憶しています。初めての長距離国際線定期便となったロサンゼルス線、そしてワシントンD.C.線では、各部門でスキルや経験の不足が露呈してしまいましたが、日々その改善に努めたことが、今日につながってきたのではないかと思います。国際線定期便就航25周年を迎えたことはOBとして喜ばしい限りであると同時に、これからも「安全運航」を基本に、若い運航乗務員にたゆまぬ努力を期待しています。



当時の客室乗務員は赤と紺の2種類の制服を着用していました。帽子もありました。

『あんしん、あったか、あかるく、元気!』の活力こそ

山本かおり

東京空港支店旅客部 旅客課
旅客サービスマネジャー



グアム線が飛び始め、ロサンゼルス線、ワシントンD.C.線の就航を1カ月後に控えた1986年6月に入社した私は、成田空港支店運送部(当時)に配属になりました。エコノミークラスだけのグアム線に3クラスのロサンゼルス線、ワシントンD.C.線が加わり、チェックインも手作業からコンピューター方式に変わり、路線が次々に増え、お客様も増え、見る見るうちに国際線が拡大する中で無我夢中で仕事をしました。当時は40人ほどだった成田空港のグランドスタッフも、今や1,300人に増えました。そして昨年10月からは羽田空港からも国際線定期便が就航し、webサイトからのチェックインなど、お客様の利便性も飛躍的に高まりました。就航当時から、変わらずスタッフが心に留めていることは「あんしん、あったか、あかるく、元気!」の活力だと自負しています。今後もこの活力を忘れずに頑張りたいと思います。



ロサンゼルス線、ワシントンD.C.線のビジネスクラスは、ファーストクラスに近い位置付けで「スーパーエグゼクティブクラス」と呼ばれていました。太平洋路線初の「2-2-2」配列の横6列シートとして、お客様からは大好評でした。



ビジネスクラスでのウェルカムドリンクサービス



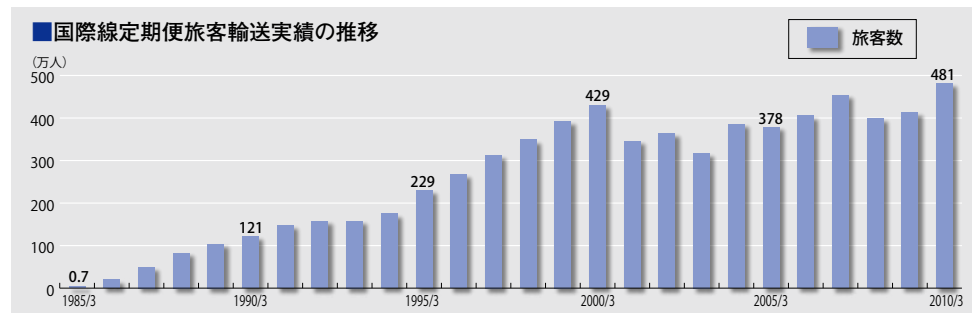
成田空港のグランドスタッフ



「to The World」のパンフレット



東京→ワシントンD.C.線の就航第1便の搭乗券



ANAグループ国際線定期便

1986年8月1日
3路線28便(片道)/週



2011年8月1日
46路線764便(片道)/週